

津田小地域コーディネーター 福井公美子さん



Q 地域コーディネーターになったきっかけは何ですか？

カリブー（鹿沼市図書館ボランティア「K L V協会」）で津田小と北犬飼中で活動していました。その活動を通じて鹿沼市のコーディネーター研修会を受けていたところ、市から要請され、引き受けた次第です。

カリブー（鹿沼市図書館ボランティア「K L V協会」）

この組織は、鹿沼市の自慢の組織のひとつです。ご紹介します。

K L V協会（カリブー）

K L V協会とは、K…鹿沼 L…図書館 V…ボランティア の略です。

活動目的

「できる時に、できる人が、できることを」をモットーに会員同士学び合いながら、本と子ども達をつなぎ「読書のまち鹿沼」をめざしています！

活動内容

1992年に発足し、現在186名の会員が各施設に登録して活動を行っています。施設ごとに登録人数が1～15名と異なりますが、趣味や特技を生かし子どもたちに、本の楽しさを伝えています。

活動場所は、鹿沼市内34か所の小中学校の学校図書館、市立図書館、公共施設などで、各施設に応じた、特色ある活動を行っています。

主な活動としては、蔵書整理（選書・受け入れ・補修）施設管理（環境整備・書架整理）読書普及（読み聞かせ・図書紹介）教育活動（授業支援・利用指導・図書委員会指導）また、読書の盛んなまちづくり、生涯学習のまちづくりを目指し、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に本を読んでもらえることを目的とした街角ライブラリー活動や、影絵上映などで郷土愛を育む活動なども行っています。

【K L V協会 事務局】

鹿沼市文化橋町982-18 鹿沼市民情報センター5F（団体情報室）

TEL：0289-63-8360 FAX：0289-63-8361（月・水・金 10:00～12:00）



※鹿沼市ふらっとHPより引用

令和4年度の会員数は、202名、活動場所は33か所だそうです。

この日も、津田小学校のボランティアとしてKLVの皆さんと**図書委員会**の支援にいらしてました。「本の修理」のアドバイスがこの日の支援でした。



図書担当の先生と
図書支援員の先生と
協働します。

本を大切にする
子供たちが育ちますね。

Q コーディネーターとしての研修などは受けましたか？

先ほどお話しした鹿沼市の教育委員会が主催していた「地域コーディネーター養成講座」で研修を受けました。ちょうど板荷自然体験交流センターが、4泊5日で子供たちの宿泊学習を始めた時（平成18年～）自分の子が対象学年だったので、保護者へのボランティアのリーダーとして、レクリエーションの事前準備や宿泊中の補助など、先生方と協力して活動し、次年度の保護者へ聞き継ぎました。その後、学校のために何かお手伝いできることはないかと思い、「朝の読み聞かせ」のボランティアを取りまとめ、当番表作成を細々と続けています。研修やボランティア活動を通じて一番感じたことは、それらが自分自身の学びとなったことです。

Q コーディネーターの主な仕事は何ですか？

今までは、学校で依頼されたことをボランティアの皆さんと協働していました。津田小は、昨年度から学校運営協議会が始まり、学校運営協議会の委員として委嘱を受けているので、今後どのようにコーディネートしていくか相談しながら進めていきたいと思っています。



Q 学校と地域の連携はどのように行っていますか？

今までは、学校の支援に目を向けてきました。
実は、地域に出ているわけではないので、地域のことをよく知らないのが現状です。コミスクを通して、そこを広げていきたいと思っています。
また、学校に対しては、事務作業もできるということをアピールして、学校への支援も広げていきたいと思っています。

Q コーディネーターのやりがいは何ですか？

・様々な体験ができる
・人との出会いがある
この二つです。専業主婦が長かったので、なかなか学校への声掛けに抵抗がありました。しかし、思い切ってボランティアができる旨を伝えたところ、先生が「助かります。」と言ってくださいました。その言葉を励みに今日まで続けています。

Q コーディネーターの苦勞は何ですか？

特にありません。
個人的には、スケジュール管理に気を使っています。

Q コミスクでの連携・協働はどのように行っていますか？

地域のことをあまり知らなかったり、地域の行事などやろうとしてできなかったりしたことがありました。コミスク導入をきっかけに、学校と地域の連携・協働を頑張っていきたいと思っています。



※地域の方（広く県や市にも人材を求めています）を招聘したR2のキャリア教育の授業の様子

Q 最後に何かお話ししておきたいことがございましたら…



ボランティアの広がりがないと感じています。

見えない壁があるのではないかなと思っています。

「共働きの壁」「学校へ新たな労力をかけるのではないかという危惧の壁」などではないかな、と思っています。KLVにも新しい人が入らないのです。なんとかできるとよいと考えています。

この場を借りて、呼びかけを…

津田地区を盛り上げてくれる人、是非一緒にやりましょう。

福井さん、ありがとうございます。
なんと、最後のお話は、北小学校地域コーディネーターの堀越さんと同じ内容でした。みなさん、ボランティアの人材不足に悩まれていることが分かりました。

実は、福井さんがおっしゃるように「共働きの壁」はあると思います。共働きが可能になった社会に感謝していますが、その光の影となっているのがもしかしたらこのようなことなのかもしれません。しかし、これは全てのことに繋がります。光と影は同時に存在するのです。しかし、それを影と呼ばせない工夫が我々に求められています。

さて、この仕事を続けるうちに、私は、コムスクとボランティアの救済者は「シニア」なのではないかと思い始めました。取材も始めました。今後、「シニアの部屋」も作って皆さんにご紹介しますね。

福井さん、鹿沼の自慢であるKLVを長く続けていただきありがとうございます。これからも健康に留意されてご活躍ください。

